

平成三十一年度

一般B日程入学試験

学力特待生入学試験（B日程）

入学試験問題

国語

注意事項

1. 願書提出時に、この試験科目の受験を申請していない人は受験できません。
2. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
3. 解答は解答用紙の解答欄にマークしなさい。
4. 解答用紙にある「マーク記入例」と「記入上の注意」をよく読みなさい。
5. この問題冊子は、十六ページあります。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「**I**」という言葉がある。たしかに、人間は黙っていてもわかり合えるものである。しかし、いつもそうであるとは限らない。「黙っていちやわからないだろ」と詰問されることもあれば、憤慨している相手を「話せばわかる」となだめることも、ときには必要になってくる。何かを伝えるために口に出して言うことは、人間の営みの基本であり、他の動物に比べて人間らしさの特徴であるとも言える。

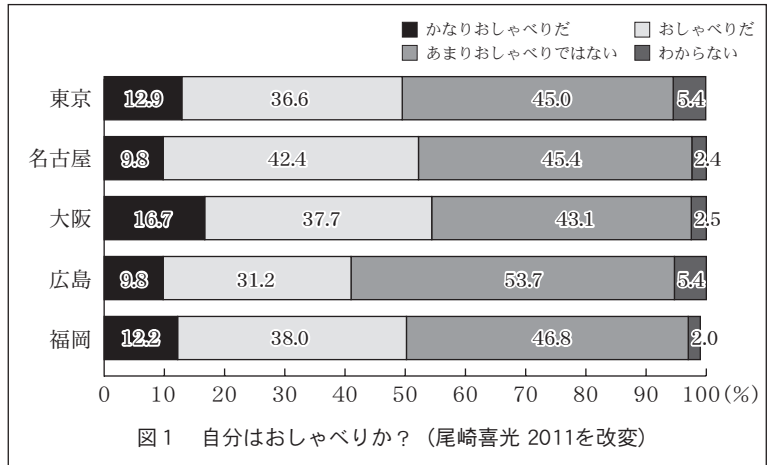
問題は、そうした人間の基本であるところの“ものを言う”という行為が、日本国内どの地域においても同じように行われるかどうかという点である。すなわち、ある場面において、ある地域では何かを言うことが求められたとしても、よその地域ではそのようなことは特に期待されないということがありうるのではないか。あるいは、別の場面において、こちらの地域では言葉を発することが評価されても、あちらの地域ではそれはツツシむべきことだとみなされている、といった地域差が存在するかもしれない。

もし、そのようなことがあるとすれば、これは地域間におけるコミュニケーション摩擦の重大な原因にもなりうる。一般に、言葉の形式的な違い、例えば、「行かない」を「行方へん」と言うとか、「蛙」を「ビツキ」と呼ぶとかいった違いは気付かれやすいが、口に出す、出さないとといった違いは自覚されにくいものである。そのため、自分自身の基準で相手の言葉遣いを評価してしまうことが、起こり得ないとも限らない。それが、新しく家に迎えた嫁や転勤してきた同僚といった身近な人たちが相手の場合には、ときとして深刻な事態を招きかねない。

口に出すか出さないか、まず、コミュニケーションの基本である“話す”という点について地域差を見ていこう。

「無口」と「おしゃべり」は対極の概念である。地域的には、関西の人々はおしゃべりで、東北の人々は無口だ、というのが世間的なイメージではないか。**II**を鵜呑みにするのはよくないが、筆者の体験からも、これは実際にそうなのではないかと思う。

例えば、大阪の地下鉄に乗り込むと、乗客同士が会話している状況によく出くわす。大人でも子供でも、昼でも夜でも、とにかくあちこちで話に花が咲いている。もちろん、知り合い同士なのだろうが、このにぎやかさは仙台や東京の比ではな



い。また、筆者は仙台と大阪の両方で同じ習い事に通ってみたことがあるが、先生の発話量が格段に違う。仙台の先生は要点の指示のみで黙っている時間の方が長いくらいだが、大阪の先生は最初から最後まで話し続けていて、習い事と関係ない話題も多い。大阪出身の同僚も、仙台ではしゃべりすぎて周囲の人たちからうるさがるられることがあると言う。

この「おしゃべり」という点について、尾崎喜光のグループが西日本の主要都市を中心に行った調査がある。図1は「友達と話すとき、自分はおしゃべりな方だと思うか?」という質問の結果である。この調査では無作為に回答者が選ばれているが、各地とも七割から八割の回答者がその土地出身の人たちなので、一応、その地域本来の傾向が現れていると判断してよいだろう。

この図からは、自分のことを「かなりおしゃべりだ」と思う人の割合が大阪で一番多いことがわかる。「おしゃべりだ」の回答を含めても大阪がトップになっている。調査地域が西日本に偏っているため、全体の傾向としてケンチヨ^Bな差は出ていないが、西日本の各地および東京と比較して大阪人のおしゃべりが多い^Bということは言えそうである。おそらく、東京以外の東日本、特に東北で同じ調査をしたならば、1。

もう一つ、陣内正敬のグループが行った意識調査を紹介しよう。この調査では、会話中での沈黙が気になるかどうかを調べている。表1は「気になる」という人の割合を示したもののだが、西日本の大阪・広島・高知の割合が高く、東日本の名古屋・東京や九州の福岡はやや低めの数値となっている。ここでも、大阪が一番である。

沈黙が気になるというのは、逆に言えば沈黙を避けたいということでもある。黙っているのは禁物、何か口を開かなければいけない。会話が途切れないようにどんどん話をつないでいく。そうなると、話し手は必然的におしゃべりにならざるを得ないことになってくる。おしゃべりは沈黙嫌いとⅢの関係にある。

表2 家庭内での挨拶（篠崎晃一 1996）

	青森	東京	三重	広島	高知	鹿児島
朝起きたとき	61.8	76.9	93.1	87.3	79.0	86.7
夜寝るとき	69.7	84.6	97.2	85.7	77.1	72.9
食事のはじめ	66.7	96.1	90.1	84.1	66.1	81.7
食事のおわり	61.6	92.1	88.9	85.5	68.9	76.7
外出するとき	82.7	96.2	95.8	91.9	91.8	83.6
帰宅したとき	80.0	98.1	97.2	92.1	88.7	90.2
家族が外出するとき	85.1	90.4	94.4	88.9	81.4	85.0
家族が帰宅したとき	86.5	96.2	95.8	90.5	86.7	91.8
平均	74.3	91.3	94.1	88.3	80.0	83.6

表1 会話の中での沈黙がとても気になる（陣内正敬 2010）

東京都	26.1%
名古屋市	29.1%
大阪市	35.0%
広島市	32.4%
高知市	32.7%
福岡市	25.7%

筆者の感覚では、関西人は東北人に比べて挨拶をよくするように思われる。例えば、新年早々、大阪の大学生協に昼食をとりに向いたところ、食堂の女性から「明けましておめでとう」と声をかけられたことがある。一瞬Ⅳをつかれた感じで、慌てて挨拶を返した。東北ではどうなのか、仙台の大学生協でも試してみたが、案の定、そういうことはなかった。

先の章で、「ケツアツ」と叫ぶ気仙沼のお年寄りの話を出した。挨拶がないのである。横浜からの介護士は、避難所の人たちに「おはよう」と挨拶しても、「おはよう」と返してくれないと言っていた。もちろん、会話の意志がないのではない。「今日は早いねー、今来たの」といきなり本題に入る感じだそうで、共通語の感覚からすれば、要するに会話冒頭の挨拶が省略されているのである。

挨拶の有無に関しては、篠崎晃一が各地の家庭内の挨拶について報告している。この調査では、日常生活で経験するさまざまな挨拶場面、すなわち、朝・夜の挨拶、食事の挨拶、外出・帰宅の挨拶が選ばれている。

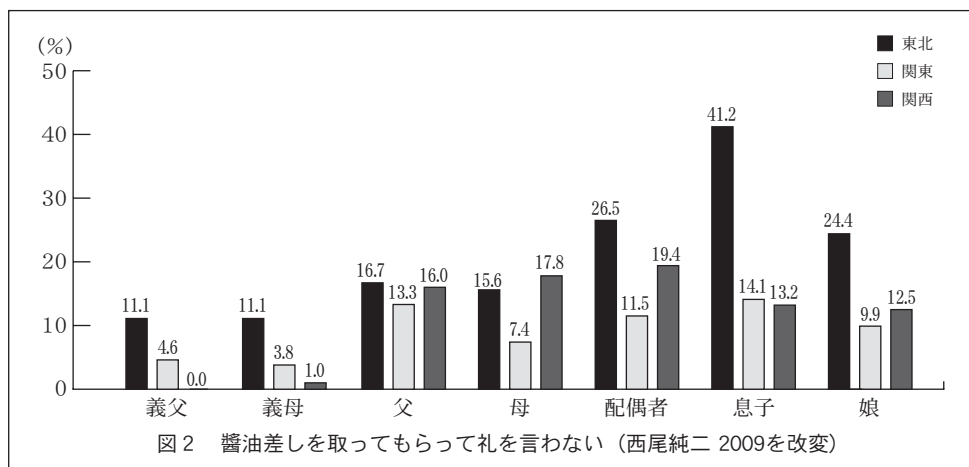
結果は表2をご覧ください。これは各場面で挨拶する人の割合を示したものが、かなりメイリョウな地域差が現れている。例えば、

2

以上のような地域差は平均値にも現れている。すなわち、三重・東京が九〇%台と高い数値を示すのに対して、広島、そして鹿児島・高知がそれより低くなっている。さらに青森が七〇%台という最も低い結果となっている。家庭内の日常的な挨拶は、近畿と関東という日本の中央部で活発であり、逆に東西の周辺部、特に東北では不活発であると言える。

この傾向は家庭内の挨拶についてのものだが、冒頭に述べた印象からすれば、家

の外での挨拶についてもあてはまるであろう。日本にはよく挨拶する地域とそうでもない地域があるということを理解しておかなければいけない。



みなさんは家族に対して礼を言うことはどのくらいあるだろうか。例えば、家族との食事中に、自分の手の届かないところにある醤油差しが欲しくなったとする。そこで一緒に食卓を囲んでいる家族に取ってもらった。そんな日常のありふれた場面を想像してほしい。

西尾純二は、そうした場面について、東北と関東、関西で調査を行った。結果は図2に示したとおりである。そこには、「礼を言わない」割合が表示されている。図を見てわかるとおり、この調査では、醤油差しを取ってもらった相手として、さまざまな家族を想定している。¹⁾誰が相手かという視点から見ると、義理の父母か、それとも実の父母や配偶者かで、関西と関東で違った傾向が現れている。

こうした点も興味深いが、全体として見た場合、何といっても東北の割合が高いことが注目される。義理の父母にさえ礼を言わない人が一割もいるうえ、配偶者や子供が相手となるとその割合は大きく跳ね上がる。つまり、東北では関西や関東に比べ、家族に対して礼を言う習慣があまりないことがわかる。

これは家庭内の場合であり、家の外での感謝の場面では、さすがに無言でいるわけにはいかないであろう。つまり、家族以外の人たちに何か恩恵を受けた場合には、日本全国、どの地域でも礼を述べることが予想される。

ところが、この予想は現実とはどうも異なるようだ。と、曖昧な言い方をしたのは、半分は当たり、半分は外れだからである。当たっているのは「無言ではない」という点である。つまり、相手から恩恵を受ければ、それに対して何か言葉を発する、それは全国共通である。ところが、その言葉の中にお礼に当たる要素が見当た

らないケースが存在する。例えば、知り合いからお金を借りる。そのとき、「助かった」とか「よかった」などとは言いが、「ありがとう」の一言が出てこない。筆者の調査では、そうした傾向は、東日本と九州、中でも東北地方に認められる。

(小林隆・澤村美幸『ものの言いかた西東』による。ただし、出題に際して、字句や表記の改変、段落の変更・省略を施した箇所がある。)

問一

I

IV

に入るものとして、もつとも適切なものを、それぞれの解答群から一つずつ選びなさい。

(解答番号

I || 1

、II || 2

、III || 3

、IV || 4)

I [1] 意気投合

[2] 一意専心

[3] 異口同音

[4] 以心伝心

[5] 一心同体

II [1] エピソード

[2] コメント

[3] マスコミ

[4] プロトタイプ

[5] ステレオタイプ

III [1] 因果応報

[2] 表裏一体

[3] 不即不離

[4] 三位一体

[5] 大同小異

IV [1] 虚

[2] 暇

[3] 間

[4] 胸

[5] 裏

問二

びなさい。

傍線部A～Cのカタカナの太字箇所を用いる漢字としてもつとも適切なものを、それぞれの解答群から一つずつ選

(解答番号

A || 5

、B || 6

、C || 7)

A ツツシ

[1] 謹

[2] 僅

[3] 慎

[4] 侮

[5] 控

B ケンチヨ

[1] 険

[2] 顕

[3] 謙

[4] 憲

[5] 懸

C メイリヨウ

[1] 瞭

[2] 陵

[3] 了

[4] 稜

[5] 良

問三

1

に入る文章としてもっとも適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

(解答番号

8

)

- [1] ここでは自分をおしゃべりだと意識する回答者の割合は、広島と同程度になるだろう。
- [2] ここでは自分をおしゃべりだと意識する回答者の割合は、福岡と同程度になるだろう。
- [3] ここでは自分をおしゃべりだと意識する回答者の割合は、大阪と同程度になるだろう。
- [4] ここでは自分をおしゃべりだと意識する回答者の割合は、ぐっと下がるにちがいない。
- [5] ここでは自分をおしゃべりだと意識する回答者の割合は、ぐっと上がるにちがいない。

問四

2

次の文章は [2] に入るものである。この文章の(1)と(3)に入るものとしてもっとも適切なものを、解答群の中から一つずつ選びなさい。なお、同じものを複数回選んでもよい。

(解答番号

(1) ||

9

、(2) ||

10

、(3) ||

11

)

朝・夜の挨拶は(1)で最も高い数値を示すが、(2)では最も低くなっている。食事の挨拶では(3)の割合が最も高く、青森・高知の割合は低い。それらに比べると外出・帰宅の挨拶は地域差が少ないもの、それでも東京・三重が高く、青森や高知・鹿児島などがやや低めであるという傾向は読み取れる。

[1] 青森

[2] 東京

[3] 三重

[4] 広島

[5] 高知

[6] 鹿児島

問五

傍線部(1)で指摘されている、関西と関東の違った傾向とはどのようなものか。もっとも適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

(解答番号

12

)

[1] 関西は、義理の父母に礼を言わないことはほぼないが、実の父母・配偶者に対しては、礼を言わない割合が15%以上存在する。それに対して関東は、義理の父母の場合も、実の父母・配偶者の場合も礼を言わない割合が10%以上存在する。

[2] 関西は、義理の父母に礼を言わないことはほぼないが、関東は、義理の父母に対しても礼を言わない割合が3〜4%存在する。また関西は実の母に対しては礼を言わない割合が高く、実の父や配偶者を凌ぐが、関東は実の母に対して礼を言わない割合は、実の父や配偶者より低い。

[3] 関西は、義理の父母に礼を言わないことはほぼないが、実の父母・配偶者には礼を言わない割合は16%以上であり関東より高い。それに対して関東は、義理の父母に礼を言わない割合は関西より高いが、実の父母・配偶者に礼を言わない割合は関西より低い。

[4] 関西は、義理の父母に礼を言わないことはほぼないが、実の父母・配偶者には礼を言わない割合が7〜13%存在する。それに対して関東は、義理の父母に対しても、実の父母・配偶者に対しても10%以上は礼を言わない。

[5] 関西は、義理の父母でも実の父母・配偶者であっても同程度の割合で礼を言わない。それに対して関東は、義理の父母の場合3〜4%礼を言わないが、実の父母・配偶者の場合はその割合は高く、特に実の父に対しての割合が高い。

問六 本文の内容と合致するものとして、もっとも適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

(解答番号 13)

[1] 調査の結果、会話の中での沈黙が気になる割合が低いのは大阪であったが、これは、おしゃべりな人はほとんど話をつないでいくことができるため、沈黙が気にならないと考えられる。

[2] 「行かない」を「行かへん」と言うような言葉の形式的な違いではなく、口に出すか出さないかとい

う点にも地域差が存在している。

〔3〕 家庭内での日常的な挨拶は、近畿や関東という日本の中央部で活発であり、東北では不活発であるが、家の外での挨拶については同様の傾向があるとは限らない。

〔4〕 何か恩恵を受けた場合に家族に対して礼を述べるか否かは地域差があり、全国共通とは限らないが、家の外ではどの地域でも礼を述べている。

〔5〕 関西の人はおしゃべりで東北の人は無口という世間的なイメージについて、筆者の体験からは正しいように思われるが、調査結果を見ると必ずしもそうであるとは言えない。

問七 次の(1)～(5)のカタカナの太字箇所を用いる漢字としてもっとも適切なものを、それぞれの解答群から一つ

ずつ選びなさい。

(解答番号) (1) 〓 14、(2) 〓 15、(3) 〓 16、(4) 〓 17、(5) 〓 18

(1) 責任をツイキユウする。

〔1〕 追及 〔2〕 追求 〔3〕 追究 〔4〕 追窮 〔5〕 追急

(2) ジキはずれの台風。

〔1〕 次期 〔2〕 時期 〔3〕 時季 〔4〕 時機 〔5〕 次機

(3) ユウシュウの美を飾る。

〔1〕 優秀 〔2〕 由秋 〔3〕 有終 〔4〕 有秋 〔5〕 幽愁

(4) シコウ錯誤の連続。

〔1〕 思考 〔2〕 試行 〔3〕 施行 〔4〕 指向 〔5〕 至高

(5) 暑さにヘイコウした。

〔1〕 閉口 〔2〕 平衡 〔3〕 閉講 〔4〕 並行 〔5〕 弊行

問八 次の三つのことわざ・慣用句の括弧に共通して入る言葉として、もつとも適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

(解答番号

19

)

・() にかける ・() につく ・() を並べる

[1] 手 [2] 鼻 [3] 耳 [4] 肩 [5] 顔

問九 次の作品について、成立順に正しく並んでいるものとしてもつとも適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

(解答番号

20

)

- [1] たけくらべ — 小説神髓 — 羅生門 — 破戒 — 蟹工船 — 李陵
- [2] たけくらべ — 小説神髓 — 破戒 — 蟹工船 — 羅生門 — 李陵
- [3] 小説神髓 — 破戒 — たけくらべ — 蟹工船 — 李陵 — 羅生門
- [4] 小説神髓 — たけくらべ — 破戒 — 羅生門 — 蟹工船 — 李陵
- [5] 小説神髓 — 蟹工船 — たけくらべ — 李陵 — 破戒 — 羅生門

二
一
次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

藤太は屋形やかたの南なる寢殿を預かりつつ、朝夕ばかり出仕したり。ある時、藤太内侍うちざむらいひへ出でたりしに、年の齡二十ばかりとおぼえし上臈じやうらふの、優にやさしきが、西の対の簾中れんちゆうより見出だし給ふことあり。藤太この有様を一目見まゐらせ、夢現やる方なく、そぞろにおぼえければ、宿所に帰りて、前後も知らず臥したりけり。これや誠に夏の虫の焰ほのほに身を焦がす思ひなれば、由なかりける恋路なりと思ひ返せど、さすがになほ、そよと見そめし顔ばせの忘れもやらず苦しければ、せめてはかくと知らせなば、死ぬる命も惜しからじと、思ひ沈みてゐたりけり。

ここにまた、時雨しぐれと申して、屋形より通ひ物する女房あり。秀郷のもとに來たりて言ふやうは、「御有様を見まゐらすに、ただごともおぼえず。おぼしめすことあらば、妾わらわはにおほせられ候へかし。力に叶ふことならば叶へたてまつるべし。御心を置かせ給ふなよ」と、ねんごろに申すなり。

藤太この由聞きて、「嬉しくも問ひ寄るものかな。人の心はいさしら雲の余所よせにして、わりなきことを語り出だし、とても叶はぬもの故に、身をなき物となしはてなば、後代の嘲あざわらひなるべし」と思ひめぐらしける。「かまへてしばしわが心、誰か百年の齡を超えし人やある。露とならば閻浮えんぶの塵、秋の鹿の笛に寄るも、妻恋ふ故ぞかし。われもこの人故と思はば、捨つる命も惜しからじ」と思ひ定めつつ、起き直りて、ささやきけるは、「はづかしや、思ひ内であれば、色外ほかに現は I とは、かやうの例なましや申すらん。みづからが思ひの種をばいかなることとおぼすらん。いつぞや御前へ参りし御局みづぼねの簾中より見出だされる上臈の御立姿を一目見しより、恋の病となり、死生定めぬわが身の風情、誰かあはれと問ふべきや」と、さめざめと泣きければ、時雨この由聞きて、偽いつはりならぬ思ひの色あはれに思ひ、「さればこそ、みづからが賢くも見知りまゐらせたるものかな。その御事はわが主の御乳母子ごにちごにておはします、小宰相こざいしやうの御方かたにてましますなり。色には人の染むこともあり。おぼしめす言の葉はあらば、一筆あそばし給はれかし。参らせてみん」と言へば、藤太いと嬉しくて、取る手もくゆるばかりなる紫の薄うす様に、なかなか言葉はなくて、

恋ひ死なばやすかりぬべき露の身の逢ふを限りにながらへぞする

と書きて、引き結びて渡しけり。

時雨、この玉章たまじきを取りて、小宰相の御方へ持ちて参り、「これこれの物を拾ひて候ふ。讀みて給はれ」と申しければ、小宰相、何心もなく開きて見給ひつつ、「これは忍ぶ恋の心をよめる歌なり」とおほせられければ、時雨さし寄りて、「何をか包み申すべき。しかじかの方より御前へ捧げたてまつり、一筆の御返事をも伺ひて得させよと頼むに、いなみ難くて、おほそれながら捧げたてまつるなり。何かは苦しい候ふべき。笹の小笹の露の間の御情けはあれかし」と侘ぶれば、女房顔うち赤めて、なかなか物ものたまはず。時雨重ねて申すやう、「夷心えびすの分く方なくて恋ひ死なば、長き世の御物思ひとなるべし。天竺てんぢくの術婆伽じゆつぱか、后きさきを恋ひ、思ひの焰ためしに身を焦がしける例、おぼし知らずや」と、やうやうに言ひ慰むるほどに、女房もさすが岩木いわたにあらねば、人の思ひの積りなば、末いかならんと悲しくて、かの玉章の端に一筆書きて、引き結びて出だされたり。時雨嬉しく思ひて、やがて藤太のもとに來たりて渡しけり。藤太、取る手もたどたどしく開き見れば、

A 人はいさ変わるも知らでいかばかり心の末を遂げて契らん

とあそばしけるを見て、(ア)。(ア)。(ア)。それより忍び忍びに参りつつ、わりなき仲とぞなりにけり。この事深く包み隠しければ、御所中に知る人さらになし。

(『俵藤太物語』による。ただし、出題に際して、字句や表記の改変・削除を施した箇所がある。)

【注】藤太：俵藤太秀郷のこと。

上臈：身分のある女性のこと。貴婦人。

夏の虫：愚かな者が自ら災いを招くことをいう。

露とならば閻浮の塵：露のように命のはかないのは人間世界の習いだということ。

秋の鹿の笛に寄る：秋になると牝鹿は獵師の吹く鹿笛の音を牡鹿の鳴き声と思つて寄つてくること。

わが主…平将門のこと。

紫の薄様…紫色の薄い紙。

天竺の術婆伽…国王の娘に恋焦がれて死んだ天竺の漁師。

問一 次の(1)(2)の問いに答えなさい。

(解答番号 (1) || 、(2) ||)

(1) に入るものとして、もっとも適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

[1] る [2] らる [3] るる [4] らるる [5] れる

(2) に入る助動詞の意味として、もっとも適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

[1] 自発 [2] 尊敬 [3] 可能 [4] 受身 [5] 完了

問二 波線部 a、b、c の敬語についての説明として、もっとも適切なものを、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

なお、同じものを複数回選んでもよい。

(解答番号 a || 、b || 、c ||)

[1] 尊敬の本動詞で、時雨から小宰相への敬意を表している。

[2] 尊敬の本動詞で、時雨から依藤太への敬意を表している。

[3] 尊敬の本動詞で、作者から小宰相への敬意を表している。

[4] 尊敬の本動詞で、作者から依藤太への敬意を表している。

[5] 謙譲の本動詞で、時雨から小宰相への敬意を表している。

問三

- [6] 謙讓の本動詞で、時雨から俵藤太への敬意を表している。
- [7] 尊敬の補助動詞で、時雨から小宰相への敬意を表している。
- [8] 尊敬の補助動詞で、時雨から俵藤太への敬意を表している。
- [9] 謙讓の補助動詞で、作者から小宰相への敬意を表している。
- [10] 謙讓の補助動詞で、作者から俵藤太への敬意を表している。

傍線部①、②の解釈として、もっとも適切なものを、それぞれの中から一つずつ選びなさい。

(解答番号

① ||

26

② ||

27

)

① せめてはかくと知らせなば

- [1] この恋は、自ら災いを招くようなものであると自覚していることをせめて知ってもらえたら
- [2] どうしようもない恋とわかっていてもあなたを思つて苦しんでいることをせめて知ってもらえたら
- [3] あなたを忘れることができず、再び会いたいと願っていることをせめて知ってもらえたら
- [4] 夢であなたと深い仲となったが、現実世界では会えず苦しんでいることを知ってもらえたら
- [5] あなたに一目ぼれしてから、重い病にかかつて臥せていることをせめて知ってもらえたら

② 岩木にあらねば

- [1] かたい岩や丈夫な木とは違い、頑固というわけではないので
- [2] 心を持たない岩や木とは違い、感情がないわけではないので
- [3] 風雨に負けない岩や木とは違い、我慢強いわけではないので
- [4] 動くことがない岩や木とは違い、人生を変えられるので
- [5] どこでもある岩や木とは違い、普通の容貌ではないので

問四

傍線部Ⅰの時雨の申し出に対する藤太の反応として、もっとも適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

(解答番号

28

)

[1] 叶わぬ恋について話し、それによって身を滅ぼしたとなれば、後世までの恥となる、と一旦は断るが、考

え直し、実は将門の屋形で見た上臈に一目ぼれをし、恋の病で苦しんでいることを伝えた。

[2] 叶わぬ恋について話し、それによって身を滅ぼしたとなれば、後世までの恥となる、と考えたが、時雨にこの悩みを知ってもらいたいとも思ったので、秋の鹿のたとえ話をした。

[3] 時雨の申し出を嬉しく思いつつも、叶わぬ恋のために身を滅ぼしたとなれば後世までの恥になる、という思いが強く、時雨には詳しい事情を話すことができなかった。

[4] 時雨の申し出を嬉しく思いつつも、身分違いで叶わぬ恋だということは認識していたので、恋の病で苦しんでいることは伏せて、上臈のことのみを聞き出そうとした。

[5] 時雨の申し出を嬉しく思い、ひと息に将門の屋形でみた上臈に一目ぼれしたこと、叶わぬ恋だと知りつつも、忘れられずに苦しんでいるので力になってほしいことを伝えた。

問五

Aの和歌の解釈として、もっとも適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

(解答番号

29

)

[1] 人の心はさあどうでしょうか。心変わりするかもしれませんが。しかしあなたの歌からは一途に私を思ってくれていることがわかりました。

[2] 人の心はさあどうでしょうか。心変わりするかもしれませんが。それなのに、どうしてあなたと契ろうなどと思うことができるでしょうか。

[3] 人の心はさあどうでしょうか。心変わりするかもしれないのも知らないで、私の心はひたすらあなたと未

をかけて契ろうと思っています。

[4] 人の心はさあどうでしょうか。心変わりするかもしれないのも知らないで、あなたのことを信じて末まで契ることなどできるでしょうか。

[5] 人の心はさあどうでしょうか。心変わりするかもしれません。あなたは末まで、私のことをひたすら思ってくれるのでしょうか。

問六 本文中の () ア () に入るものとして、もっとも適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

(解答番号

30

)

[1] 名残惜しげなり。

[2] ゆゆしがりけり。

[3] 嘆き悲しみたり。

[4] 喜ぶことはかぎりなし。

[5] ひとやりならず思しけり。

問七 「() () ひき野のつづら末^{すゑ}つひにわが思ふ人に言の繁けむ」の括弧に入る枕詞として、もっとも適切なものを、

次の中から一つ選びなさい。

(解答番号

31

)

[1] くさまくら

[2] あづさゆみ

[3] あかねさす

[4] ちはやぶる

[5] ひさかたの

問八 次の文章は中世の物語について説明したもので、『 』には作品名、()にはジャンル名が入る。次のア～ウに入るものとして、もつとも適切なものを、一つずつ選びなさい。なお、同じものを複数回選んでもよい。

(解答番号 ア|| 、イ|| 、ウ||)

鎌倉時代になると、王朝時代への強いあこがれをもった貴族たちの手による『ア』などの擬古物語が作られる。これらはその後衰え、かわって短編の物語などが多く作られるようになる。これが(イ)で、『鉢がづき』や『物くさ太郎』などがある。また、室町末期に渡来した宣教師たちによって著述された『ウ』などもある。

- | | | | | |
|-----------|----------|------------|-----------|-----------|
| [1] 狭衣物語 | [2] 住吉物語 | [3] 宇治拾遺物語 | [4] 伊曾保物語 | [5] 曾我物語 |
| [6] 宇津保物語 | [7] 御伽草子 | [8] 浮世草子 | [9] 文正草子 | [10] 仮名草子 |

問九 次の五つの単語のうち、一つだけ意味が異なるがそれはどれか。もつとも適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- | | | |
|-------------|------------|-----------|
| [1] いたづらになる | [2] むなしくなる | [3] もてはなる |
| [4] はかなくなる | [5] みまかる | |

(解答番号)